

日本映画大学のプロフェッショナル列伝、《アルテリッカしんゆり2018》とともに開幕!



# 日本映画大学 シネマ列伝

VOL.5

[ 研究系教員の激押し大会① ]

国際映画祭ディレクター **石坂健治** / 比較文学者 **大友りお** / 哲学・映画論 **田辺秋守**



アジア三面鏡2016:リフレクションズ (2016) ©国際交流基金



サザン・ウィンズ (1992) ©東南アジア祭 92実行委員会



キャンドル・フォー・マイノリティ (2017) ©アリスプロジェクト



人魚姫 (2016) ©The Star Overseas Limited



スノーホワイト (2012) ©UNITED STUDIOS



五日物語 (2015) ©2015 ARCHIMEDE S.R.L. - LE PACTE SAS



盗まれた欲情 (1958) ©日活



果しなき欲望 (1958) ©日活



豚と軍艦 (1961) ©日活

「プログラム」	4/21 [土]	12:35 人魚姫	4/25 [水]	12:35 五日物語 —3つの王国と3人の女—
		14:35 スノーホワイト		15:15 サザン・ウィンズ
		17:10 五日物語 —3つの王国と3人の女—		17:35 アジア三面鏡2016:リフレクションズ
	4/22 [日]	12:35 盗まれた欲情	4/26 [木]	12:35 豚と軍艦
		14:35 果しなき欲望		14:50 果しなき欲望
		16:45 豚と軍艦		17:00 盗まれた欲情 <span style="float:right">講義あり</span>
	4/24 [火]	12:35 スノーホワイト	4/27 [金]	12:35 アジア三面鏡2016:リフレクションズ
		15:10 五日物語 —3つの王国と3人の女—		15:05 サザン・ウィンズ
		17:50 人魚姫 <span style="float:right">講義あり</span>		17:25 キャンドル・フォー・マイノリティ+少年の居場所 <span style="float:right">講義あり</span>

[ 会期 ] **4/21 [土]** ▶ **4/27 [金]** ※4/23休映

[ 会場 ] **川崎市アートセンター**

各回入替制1000円均一  
アルテリオシネマ会員800円・会員ポイント対象外  
日本映画大学生は学生証提示で800円



《アルテリッカしんゆり》の一環として毎年開催している〈日本映画大学シネマ列伝〉は、大学に籍を置くプロの映画人たちを地域に広く紹介するシリーズです。日本映画大学では映画の「作り手」のほか、さまざまな分野の「研究者」も教鞭を執っています。合言葉は「すべての道は映画に通ず」。3人の研究者がそれぞれの分野にちなんで激推し3本を選びました。4/24(火)、26(木)、27(金)はレクチャー付き。

## 国際映画祭ディレクター 石坂健治学部長が選ぶ My製作&ちょい出演作3本

4/27[金]  
特別講義  
(最終上映後)

早稲田大学大学院で映画学を専攻し、アジア映画やドキュメンタリー映画の研究者として出発しましたが、国際交流基金と東京国際映画祭で長年プログラマーをやっているうちに色々な国の人たちと縁ができ、最近はプロデュース物件が増加。この歳になって「現場」の魔力にハマっています。今回は製作に関わった3本を上映。いずれもアジア多国籍のコラボ作品です。

### アジア三面鏡2016:リフレクションズ

[2016年/カラー/ビスタ/1h58/DCP]

アジア4か国オムニバス映画 (フィリピン=日本=カンボジア)

国際交流基金と東京国際映画祭による「アジア三面鏡」プロジェクト第1弾。B・メンドーサ「SHINIUMA(死に馬)」、行定勲「鳩 Pigeon」、ソト・クォーリーカー「Beyond The Bridge」の3話オムニバス。メンドーサは吹雪の北海道、行定は灼熱のペナン島で、自国を離れてロケを敢行した。

### サザン・ウィンズ

[1992年/カラー/ビスタ/1h52/35mm]

アジア4か国オムニバス映画 (インドネシア=フィリピン=タイ=日本)

「東南アジア祭'92」の一環として製作されたオムニバス。S・R・ジャロット「ミラーージュ」、M・デ・レオン「アリワン・パラダイス(娯楽の天国)」、C・ソンスイー「生命の樹」、鴻上尚史「トウキョウゲーム」の4篇。鴻上篇では主演の磨赤児と映画初出演の大森南朋が一瞬の親子共演。

### キャンドル・フォー・マイノリティ

[2016年/カラー/ビスタ/0h25/HD]

脚本・監督・編集: 太田信吾 / 出演: 桜のどか、ラジャ・ミヤ、モト冬樹

2015年自爆テロ事件のあった直後にパリの街角で出会い、結ばれた日本人とバングラデシュ人のアーティスト同士のカップル。精神的トラウマを抱えた二人は…。劇団チェルフィッチュで俳優として活躍する太田信吾の最新監督作。

【併映】日韓学生共同制作第5弾『少年の居場所』(2018年/0h25)

## 比較文学者 大友りお教授が選ぶ おとぎ話の書き換え映画3本

4/24[火]  
特別講義  
(最終上映後)

比較文学 博士(モナシュ大学) 修士(香港大学) 担当講義は「英米文学」「映画で学ぶジェンダーとセクシュアリティ」他。何百年も生き残ったおとぎ話は人の心の傷を語る(佐野洋子)。醜い姉や嫉妬に狂う義母が、時代を超えて女性の生きづらさを伝え、ヒロインも結婚という檻に幽閉される。ここに紹介する三作では、それぞれの映画作家が女性の心のトゲを抜いて傷を癒そうと試みている。どの作品もCGIフル回転のファンタジー。

### 人魚姫 美人魚, The Mermaid

[2016年/中国、香港/カラー/ビスタ/1h34/DCP]

監督: 周星馳 (チャウ・シンチー/Stephen Chow)

周星馳版『ラスト・コーション』。アンデルセンによる原作童話は、女性の身体を痛めつける究極のサディスティック・ストーリーである。下半身のない女は、快楽も自分の欲望も知ることがない。その悲劇をドタバタ喜劇は超えることができるか?

### スノーホワイト Snow White and the Huntsman

[2012年/アメリカ/カラー/シネスコ/2h07/35mm]

監督: ルパート・サンダーズ

監督デビュー作。『指輪物語』『もののけ姫』などへの言及は効果的で、フェミニズムのチェックポイントが全てクリアされている。英国のベテラン俳優たちが演じる七人の小人(ホビット)の上質な演技をお見逃しなく。

### 五日物語 —三つの王国と三人の女— Tale of Tales

[2015年/イタリア、フランス/カラー/シネスコ/2h13/DCP]

監督: マッテオ・ガローネ

ナポリ方言で書かれた原作はグリムやペロウの先達である。ガローネが再構成した三つの物語は、女性たちの心の傷をさらに深くえぐって見せることで、辛辣な社会批評となっている。怪物が見所の大人のためのダーク・ファンタジー。

## 哲学・映画論 田辺秋守准教授が選ぶ 今村昌平の初期“重喜劇”3本

4/26[木]  
特別講義  
(最終上映後)

現代哲学専攻。早稲田大学大学院文学研究科哲学専攻博士課程満期退学、ポッフム大学、ベルリン自由大学留学。『カンゾー先生』(今村昌平監督、1998)ドイツ語指導監修。週刊「図書新聞」映画評連載。今村昌平(1926-2006)は自作を象徴する表現として「重喜劇」という言葉を使っている。軽喜劇をもじった今村自身の造語である。今村昌平の初期作品(日活時代)3作のなかに重喜劇の系譜をたどる。

### 盗まれた欲情

[1958年/白黒/シネスコ/1h32/35mm]

原作: 今東光、監督: 今村昌平、脚本: 山内久、撮影: 高村倉太郎、音楽: 黛敏郎 / 出演: 長門裕之、南田洋子

今村昌平監督第一作。ワイドスクリーンを活かし、ロングで多数の人物を描く群像劇は、デビュー作から確立されている。インテリ青年が自分の理想とする演劇を旅回りの一座で実践しようとし、結局は挫折するという喜劇である。

### 果しなき欲望

[1958年/白黒/シネスコ/1h42/35mm]

原作: 藤原審爾、監督: 今村昌平、脚本: 山内久・今村昌平、撮影: 姫田真佐久、音楽: 黛敏郎 / 出演: 長門裕之、中原早苗

今村重喜劇の誕生作。終戦直前に埋めた軍のお宝を掘り出そうとトンネル掘りに暗闘する四人の男と一人の女の物語。サスペンス風に進捗しつつ、強欲なメンバー同士の内輪揉め、裏切り、因果応報を描く悪漢ドラマ。

### 豚と軍艦

[1961年/白黒/シネスコ/1h48/35mm]

監督: 今村昌平、脚本: 山内久、撮影: 姫田真佐久、音楽: 黛敏郎 / 出演: 長門裕之、吉村美子

基地の街構須賀に巣食うヤクザと女たちと米兵の物語。豚をめぐるブラックユーモアは、戦後日本の状況的な寓意である。長門裕之演じるチンピラヤクザの死に様には、ヌーベルバーグ的な同時代性がある。今村重喜劇の到達点。

【会場】

## 川崎市アートセンター

小田急線「新百合ヶ丘駅」北口より徒歩3分

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺6-7-1 Tel.044-955-0107

川崎市アートセンター アルテリオ映像館 <http://kac-cinema.jp> / 日本映画大学 <http://www.eiga.ac.jp>

